

(望岳山荘にて五カ国語の松本案内(市民タイムス-1990.08.08)

望岳山荘

い

今年も益々や青山様といった、あの懐かしい夏の子どもの夜祭りの季節がやってきた。東京のわが家にホームステイしていたアメリカや中国やフランスやインドネシアからの留学生にとっては、お盆の時期の松本が最高のプレゼントであったようだ。

夏休みの始めが終わりの時期に、私のゼミナール(国際関係論)の夏合宿を必ず松本近郊で催すようになってから、もう二十年以上になっている。当初は、

この望岳山荘でやってきたのだが、人数の関係で無理になり、昨年は二度目の崖の湯、今年はやはり二度目の乗鞍高原温泉だった。この私のゼミナールには、外国人留学生在が年毎に多くなってきてい

五カ国語の松本案内

るけれど、もうずっと以前から、たとえば北京から来た学生と台北から来た学生が仲良くやりあっている。

夏合宿の後には私が学生たちを松本城や牛伏寺、開智学校、深志高校、城山公園などに案内し、松本ならではの

の信州そばや中華風焼きそばを馳走してあげるのが習わしであったが、ここ二、三年は学生たち自身で松本を歩くように勧めていく。その際には、駅ビルの観光案内所で松本案内をもらうように、

とくに留学生には必ず指導しているのだが、それは、松本の観光案内が他の都市に類例のないほど素晴らしいものだからである。今年

も私の研究室には「アールプスとお城と創造のまち 松本」と題した美しいパンフレットが

大量に送られてきたけれど、それは英語、ドイツ語、中国語、フランス語、朝鮮語の五カ国語で書かれている。私の知るかぎり、観光案内が五カ国語で出ているのは全国でも松本市と広島市だけだ。このパンフレットは、松本市が政府出資法人の国際観光振興会と協力してつくっているのだが、私のゼミナール出身で朝鮮語のよく出来る同振興会のスタッフ、K君の心遣いがそこに活かしていることが、私にはたまらなく嬉しい。

(中嶋 嶺雄・東外大教授)